

# 出雲市中小企業景況調査報告書

< 2022年7月～9月期 >

1. 調査期間 令和4年10月1日（土）～令和4年10月21日（金）

2. 調査対象企業 出雲市内事業所180社 回答数168社 回答率93.3%

業種	出雲商工会議所管内		平田商工会議所管内		出雲商工会管内		斐川町商工会管内		合計	
	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数
建設業	13	12	4	4	4	4	4	4	25	24
製造業	18	17	7	7	6	6	5	4	36	34
卸売業	9	8	2	2	3	3	3	3	17	16
小売業	23	21	9	9	8	8	9	7	49	45
サービス業	27	25	8	8	9	8	9	8	53	49
合計	90	83	30	30	30	29	30	26	180	168

3. 調査実施機関 出雲商工会議所、平田商工会議所、出雲商工会、斐川町商工会

## 今 期（2022年7－9月）の 概 要

本調査は、出雲商工会議所が平田商工会議所、出雲商工会、斐川町商工会と共同で市内事業所から調査対象事業所180社を選定し実施しています。

概 況（前期調査＝2022年4－6月期）

全業種の業況DIは、前期比の業況DIで△7.8（前期調査△5.4）、前年同期比で△1.8（前期調査△0.6）とマイナス幅が拡大しました。

来期（令和4年10～12月期）の見通し業況DIは、0.0（前期調査△9.1）とマイナス幅が縮小しました。一方で、建設業、製造業ではマイナス幅又はプラスからマイナスに転じています。

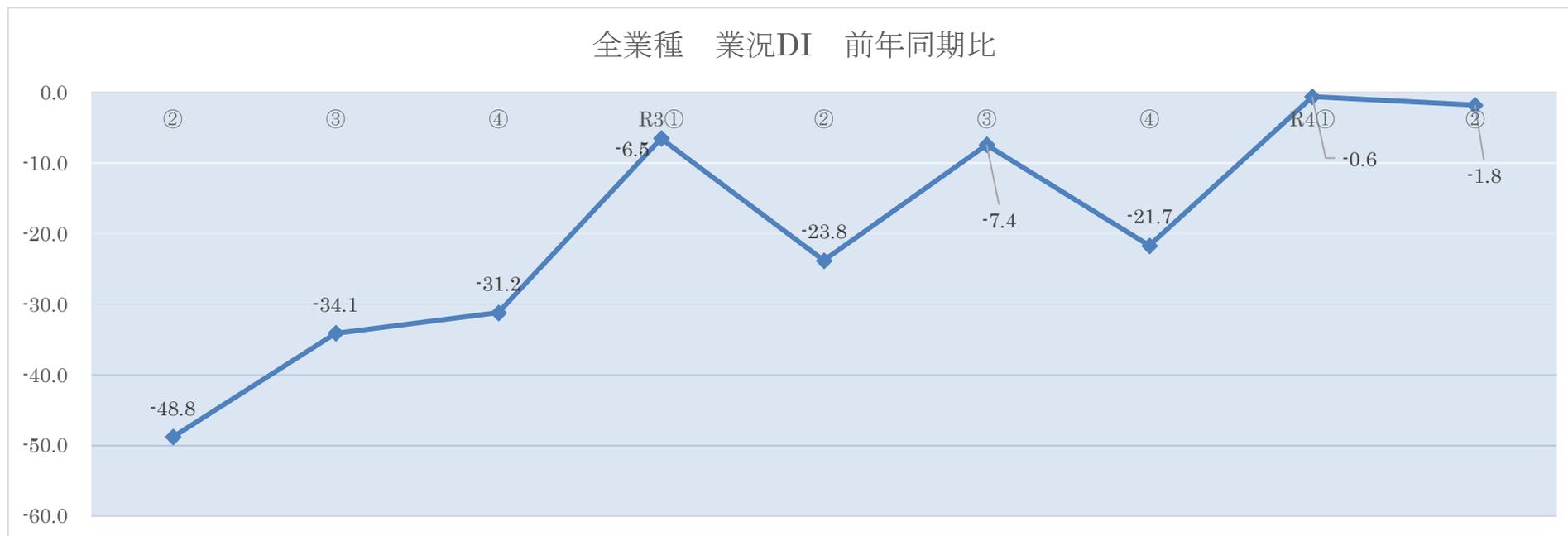
全業種の売上DIは、前期比では△6.5（前期調査△1.2）とマイナス幅が拡大しました。前年同期比でも△1.8（前期調査3.5）と、プラスからマイナスに転じました。一方で、製造業の前期比ではマイナスからプラスに転じ、前年同期比でもプラス幅が拡大しています。卸売業、サービス業についてもプラス幅が拡大、マイナスからプラスに転じています。

来期（令和4年10～12月期）の見通し売上DIは、10.1（前期調査△13.0）とマイナスからプラスに転じました。一方で、製造業ではプラス幅が縮小しています。

設備投資については、今期実施した割合が39.6%（前期調査34.2%）と前期調査より増加しました。実施した設備投資の主なものは、「機械・備品」25.7%、続いて「OA機器」20.3%でした。

来期（令和4年10～12月期）については、設備投資を計画している割合は43.5%（前期調査45.0%）と前期調査より減少しました。割合の高い順に「機械・備品」32.5%、続いて「車両運搬具」「OA機器」18.1%となっています。

経営上の問題点としては、「需要の停滞、受注減少」を1位にあげる事業所が30.2%（前期調査30.4%）、2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」30.2%（前期調査24.0%）となっています。



#### 業種別景況調査の主要DI (前期調査=2022年4-6月期)

##### 1、建設業

- ・今期業況DIは、前期比で $\Delta 12.5$  (前期調査 $\Delta 4.5$ )、前年同期比で $\Delta 12.5$  (前期調査 $4.5$ )と前期比ではマイナス幅が拡大し、前年同期比ではプラスからマイナスに転じました。
- ・売上DIは、前期比で $\Delta 25.0$  (前期調査 $\Delta 16.7$ )、前年同期比で $\Delta 29.2$  (前期調査 $4.2$ )と前期比ではマイナス幅が拡大し、前年同期比ではプラスからマイナスに転じました。
- ・来期業況見通しDIは、今期比で $\Delta 12.5$  (前期調査 $\Delta 4.5$ )、来期売上見通しDIは、今期比で $0.0$  (前期調査 $\Delta 25.0$ )と来期業況見通しDIではマイナス幅が拡大し、来期売上見通しDIはマイナス幅が縮小しました。  
前期に引き続き、材料価格が値上がりしているといった意見がありました。

## 2、製造業

- ・今期業況D I は、前期比で5.9（前期調査△12.1）、前年同期比で11.8（前期調査0.0）と前期比でマイナスからプラスに転じ、前年同期比でもプラス幅が拡大しました。
- ・売上D I でも、前期比で2.9（前期調査△11.8）、前年同期比で11.8（前期調査0.0）と前期比でマイナスからプラスに転じ、前年同期比でもプラス幅が拡大しました。
- ・来期業況見通しD I は、今期比で△5.9（前期調査9.1）、来期売上見通しD I は、今期比で5.9（前期調査18.2）と来期業況見通しD I でプラスからマイナスに転じ、来期売上見通しD I もプラス幅が縮小しました。  
コロナ前以上に売上があったといった声がある一方で、増産体制に向かう中での人手不足や原材料・電気代の値上がりを不安視する声もありました。

## 3、卸売業

- ・今期業況D I は、前期比で12.5（前期調査11.8）、前年同期比で12.5（前期調査11.8）といずれもプラス幅が拡大しました。
- ・売上D I は、前期比で18.8（前期調査23.5）、前年同期比で12.5（前期調査0.0）と前期比でプラス幅が縮小した一方で前年同期比ではプラス幅が拡大しました。
- ・来期業況見通しD I は、今期比で12.5（前期調査11.8）、来期売上見通しD I は、今期比で12.5（前期調査5.9）といずれもプラス幅が拡大しました。  
商品の値上げが多かった10月前に買い溜めによる売上増加があった一方で、物価上昇による経費増加に苦慮する声も多くありました。

## 4、小売業

- ・今期業況D I は、前期比で△32.6（前期調査△12.5）、前年同期比で△14.0（前期調査2.1）と前期比はマイナス幅が拡大し、前年同期比でもプラスからマイナスに転じています。
- ・売上D I でも、前期比で△15.6（前期調査△4.2）、前年同期比で△15.6（前期調査18.8）と前期比はマイナス幅が拡大、前年同期比とでもプラスからマイナスに転じています。
- ・来期業況見通しD I は、今期比で2.3（前期調査△17.0）、来期売上見通しD I は、今期比で4.4（前期調査△18.8）といずれもマイナスからプラスに転じています。

商品の仕入価格の高騰に苦慮する声や、コロナウイルスの影響による来客減少がまだ続いているといった声がありました。コロナの収束による需要増加や出雲市の商品券発行による売上増加を今後、期待する声がありました。

## 5、サービス業

- ・ 今期業況D Iは、前期比で0.0（前期調査0.0）、前年同期比で0.0（前期調査△10.4）と前期比は変動がなく、前年同期比ではマイナス幅が縮小しました。
- ・ 売上D Iでも、前期比で△4.1（前期調査8.2）、前年同期比で10.2（前期調査△8.2）と前期比はプラスからマイナスへ転じ、前年同期比ではマイナスからプラスへ転じました。
- ・ 来期業況見通しD Iは、今期比で4.1（前期調査△21.7）、来期売上見通しD Iは、今期比で22.4（前期調査△29.8）といずれもマイナスからプラスに転じました。

コロナウイルスの影響が少しずつ落ち着き、売上も少しずつ上がってきているといった声が多くありました。一方で、物価高や水道光熱費の影響に苦慮する声がありました。

## 設備投資動向

### 1、今期設備投資

- |       |  |
|-------|--|
| 全業種   | 設備投資を実施した事業所の割合は39.6%（前期調査34.2%）と前期調査を5.4ポイント上回りました。内訳としては、「機械・備品」が最も高く25.7%、続いて「OA機器」が20.3%でした。 |
| 建設業   | 実施割合は44.4%（前期調査44.4%）。「OA機器」の割合が最も高くなりました。   |
| 製造業   | 実施割合は55.0%（前期調査43.6%）。「機械・備品」の割合が最も高くなりました。  |
| 卸売業   | 実施割合は18.8%（前期調査35.3%）。「OA機器」の割合が最も高くなりました。   |
| 小売業   | 実施割合は39.6%（前期調査36.5%）。「車両運搬具」の割合が最も高くなりました。  |
| サービス業 | 実施割合は31.4%（前期調査18.4%）。「機械・備品」の割合が最も高くなりました。  |

## 2、来期設備投資

- 全業種 設備投資を計画している事業所の割合は43.5%（前期調査45.0%）と前期調査を1.5ポイント下回りました。内訳としては、「機械・備品」が最も高く32.5%、続いて「車両運搬具」「OA機器」18.1%でした。
- 建設業 設備投資を計画している割合は46.4%（前期調査52.9%）。「OA機器」の割合が最も高くなっています。
- 製造業 設備投資を計画している割合は58.1%（前期調査50.0%）。「機械・備品」の割合が最も高くなっています。
- 卸売業 設備投資を計画している割合は33.3%（前期調査45.0%）。「機械・備品」の割合が最も高くなっています。
- 小売業 設備投資を計画している割合は45.1%（前期調査45.5%）。「機械・備品」「車両運搬具」の割合が最も高くなっています。
- サービス業 設備投資を計画している割合は31.4%（前期調査34.7%）。「機械・備品」の割合が最も高くなっています。

### 経営上の問題点

- 全業種 第1位は「需要の停滞、受注減少」で30.2%、第2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」30.2%でした。
- 建設業 第1位は「需要の停滞、受注減少」「従業員の確保難」で29.2%、第2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」で35.0%でした。
- 製造業 第1位は「需要の停滞、受注減少」「従業員の確保難」で23.5%、第2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」で31.3%でした。

卸売業 第1位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」で43.8%、第2位は「仕入・人件費以外の経費の増加」「従業員の確保難」で20.0%でした。

小売業 第1位は「需要の停滞、受注減少」で35.7%、第2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」で25.6%でした。

サービス業 第1位は「需要の停滞、受注減少」で28.3%、第2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」で34.9%でした。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」、「好転」したなどとする企業割合から、「減少」、「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。